

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば (1階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市岡1293-3		
自己評価作成日	令和4年3月16日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanitrue&JigyosyoCd=2290400080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の中には、以前併設デイサービスの利用者の方も居り、ご家族との連携が充実している。併設の居宅介護支援事業所もあり連携が図りやすい。今年度より、リハビリ専門職を併設デイサービスに配置し、フロア毎に平行棒訓練が出来る環境があり、お客様の身体機能向上に好影響となっている。コロナ禍で制限が多くなる中、法人連携により、オンラインを通じた実践を取り入れ、サービス質向上に努めている。栄養士が中心となり食事面での安全配慮を行い、充実を図り、食の満足に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍にあってフロア間の交流さえままならない中、法人のスケールメリットでWi-Fi環境が一斉整備され、デイサービス仲間との画面越し交流や、オンラインライブとして童謡や馴染みの曲をテレビに映し出すなど、今までにない楽しみが増し、オンラインによる面会も定着して録画により家族間で共有するなど、ICTの活用が目を見えます。併設事業所がリハビリ強化型デイサービスとなったことを機に、グループホーム各階にも平行棒を設置し、理学療法士の助言をもとに機能訓練に励み、日課として取組んだ結果、ADL向上とともに精神面の安定も図られた例もあり、今後もその効果が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 2290400080					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に掲げ、コロナ禍で制限がかかる中、朝礼で実践方針を共有している。法人としても中途採用者研修を通じて、理念共有を図っている。	理念は周知だけでなく、現場のケアに置き替えて発信することに重点を置き、「どのようなケアが「自らが受けたいと思う医療と福祉」という理念に値するか」が根付くよう、朝礼での報告と照らし合わせ、イメージできるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域祭りに参加していたがコロナ禍で叶わず、防災訓練で炊き出し支援をいただいた地域女性部の皆様がタオルを寄贈してくれた。	運営推進会議の地域代表メンバーには、顧問となった現在でも出席くださる人もあって、開設17年の積み重ねが感じられます。コロナ禍で中止となる行事も多い中、敬老会での紅白幕貸し出しやタオル寄贈など、地域の一員として変わりない支援が得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて、地域へ発信している。併設デイサービスを通じて外部ケアマネージャーへの情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リハビリ強化型デイサービス移行に伴い、平行棒を各フロアに設置し、機能訓練強化している状況について助言をいただいている。	感染者数の推移をみて書面会議とし、2ヶ月毎の開催が叶っています。書面開催の折には予め議題を提示し、意見・要望を聴取して取りまとめた議事録を手渡しています。入居者状況、活動報告の他、感染症対策の事案からも、取り組みへの真摯な姿勢がうかがえます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	伊東市高齢者福祉課担当者と密に情報共有や制度改定後の確認事項等を行い、コロナ禍において、運営実態について情報共有している。	新設された加算算定要件等の解釈について、窓口を訪問して疑問点を尋ね、役所内協議を経て回答をもらうなど、丁寧な対応が得られています。地域包括支援センターからは、地域情報のアナウンスや地域福祉に関する相談を通して連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会後開催する、身体拘束廃止委員会で身体拘束適正化に向けて協議し、職員の意識向上につなげている。新入職員については、法人研修、施設オリエンテーション時に理解を深めている。	現在、三要件の対象となる案件もなく、3ヶ月毎の身体拘束廃止委員会の開催と周知、定期的及び新任者への研修は滞りなく進められています。研修においては「参加結果兼アンケート」を通して受講後の感想や理解度を記述し、研修効果を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内・事業所内でも研修等を通じて理解を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後対象となる可能性のお客様を通じて、成年後見制度について理解を深めている。併設居宅ケアマネージャーより情報収集している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に認知症の方の生活上で起こりうる可能性のある事柄についてご説明し、不安を共有しながらリスク説明も交えて契約を行っている。契約担当者を複数名設けて、契約後等の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に一回実施し、施設を介さずに法人へ直接回答をする仕組みとなっている。	面会制限もあり、対面で意見を聞く機会は少ないものの、毎年法人アンケートが実施され、意見や要望を反映しています。「健康状態の報告が欲しい」という昨年度のアンケート結果から、毎月発行している写真入りお便りに「訪問診療の先生より」の欄を設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人目標も振り返りを行い、面談をする場を設けています。各ユニット会議にて職員の意見を吸い上げ運営に展開している。	コロナ禍で、全体が集まる会議を避けユニット会議としています。事前アンケートで職員から課題を吸い上げ、ユニットリーダーを中心に話し合いがおこなわれています。訪問診療医師への質問方法や室内環境、食事環境の見直し等、多方面からの気づきを改善につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍での安全環境確保の為、休憩室を増やし休憩の工夫を行った。業務内容の見直しにより時間外削減に繋がっている。コロナ禍の今は時間外なく退勤でき、家族との時間充実に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー達で協議をし、職員研修への参加計画を立て参加を促している。今年度はコロナ禍の為オンライン研修が主流となり、より参加しやすくなった。資格取得支援を強化しこまめなカリキュラムの学びは職員の自信に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内会議などを通じて得た情報を水平展開し、サービスの質向上に努めている。研修参加時のグループワーク等では他事業所職員との交流が図れる良い機会となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりはじめの頃は、特に職員との関係性作りと席など環境設定に重点を置き、安心していただけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員2名体制で導入時の相談にのっている。ご家族面談にて不安や困り事は聞き取りをしている。都度、お困り事や要望に対しては丁寧に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ禍ではあるが、機能維持に努めてもらえるよう、平行棒訓練を案内している。医療体制についてはご家族様と慎重に相談をし、訪問診療等を通じてご家族様の不安軽減に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様お一人お一人の役割を持っていただくことで出来る事を増やし、やりがいを持って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に利用における留意事項等を説明し、ご家族様との協力支援の重要性を伝えている。都度、ご家族の意見を取り入れながらケア体制を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスをご利用されていたお客様が入所となる事もあり、デイサービスで築いた関係性が継続できるように支援している。コロナ禍で遠方のご家族が面会が叶わなくなってしまったが、オンライン面会で孫との再会も叶った。	※外から毎月面会に訪れていた家族とはオンラインでの面会に慣れ、画面越しで手を振り合い、孫も参加するなど、約束の日が来ることを心待ちにしています。また、家族が届けてくれる毛糸で趣味の編み物を続けたり、好きなテレビ番組を見る時間を確保して安寧な暮らしを守っています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション等を通じて一体感が生まれるように取り組んでいる。席の配置に配慮をし、関係性に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった際は、法人内連携、地域包括との連携により支援にあたっている。転居先相談員との情報交換する場合もある。		
Ⅲ. 人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	待機者の多くは併設デイサービスの方が多いが、待機中に意向、希望確認について情報収集に努めている。	入居の際は事務手続きと現場対応の両側面からの要望に応えられるよう、職員2名体制で相談にのっています。ユニットでは担当職員を決め、日頃の気づきや本人の言葉を書き留めてユニット会議で挙げ、これをもとに介護支援専門員はアセスメントシートを更新しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、関係者からの聞き取りで得た情報を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理の為に日々のバイタルチェック表や医療連携簿等を通じて把握している。併設デイサービス理学療法士の評価も交えて、現状把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきノートを用いて職員からの意見を収集し、ユニット会議で協議し計画作成に生かしている。ユニット会議にてケアの見直しや、お客様に合わせた日課プログラム等を協議し計画作成している。	担当職員がモニタリングを計画作成に提出し、ユニット会議をカンファレンスの場としています。「耳の聞こえに注意して他者交流の橋渡しをする」「不安事や訴えを傾聴し～」と支援のポイントを記載した介護計画書を確認しました。	機能訓練が目標達成への動機づけとなるとさらに良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録上で実践状況を踏まえて、ユニット会議で協議し計画書作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと連携し、体操やレクリエーション等について水平展開している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍で制限が多く、敷地内の散歩等で草花に触れ、穏やかに生活頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、訪問診療で対応している。訪問看護との連携もあり安心につながっている。コロナ禍での家族受診は大きな負担に繋がる為、事業所内で受けられる体制はご家族様より支持を受けている。	24時間365日対応可能な協力医に全員が変更しています。通常は月2回の訪問診療がありますが、コロナ禍の現在は月1回の訪問診療と往診で対応しています。立ち合いは管理者補佐、リーダーがおこない「医療連携記録簿」に記録しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の状態変化を細かく観察し、訪問看護、医療連携看護師との連携を通じて、必要に応じ主治医へ相談している。訪問診療時には担当者が医療連携看護師と事前共有した上で臨んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	所長・管理者・計画作成担当者を中心に入退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適宜、必要なお客様をピックアップし、今後看取り支援に向かうような方への事前協議を担当者会議も活用し、ご家族様と検討している。	契約時には「重度化の指針」に沿って説明し、署名同意をもらうとともに、延命も含め入居時点の意向を確認しています。重度化に際しては都度話し合いを重ね、本人と家族にとって最善の方法を模索しつつ、看取り介護計画書に沿ったこまやかなケアで今年度も3名をお見送りしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを掲示し、急変、事故発生後は朝礼で情報発信し、各方面から助言をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を通じて、町内会からの支援も頂いている。新入職者を中心に各種防災関連項目について知識習得に努めてもらっている。	年2回の防災訓練のうち1回は業者立ち会いのもと、新入職員向けの通報装置操作説明や消火訓練、夜間のスプリンクラー誤作動に備えた操作説明を受けています。また、火災想定では2階非常階段からの避難訓練も実施し、備蓄は法人指導の下7日分を用意しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. 人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心として、こやまケア行動指針に沿ってお客様へもかかわり方について考え対応している。ユニット会議でも接遇について協議を重ねている。	入居者の生活の場であることを常に意識し、申し送りをおこなう立ち位置や声のトーン、記録物を置く場所にも留意しています。また、申し送りでは個人名を出さず、部屋番号を番地に替えて呼び、入居間もない若い女性の入浴には同性介助で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際、嗜好にも考慮し提供している。平行棒を導入し、歩行訓練希望者には安全配慮の上、訓練いただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護記録にサービス内容を記載し、お客様の生活ペース等を理解し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の嗜好等に配慮し洋服などお客様と一緒に決めている。また、ヘアカットに併せてネイルなども取り入れでおしゃれの機会を定期的に作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やリクエストメニューなど、食べる楽しみを重視し、食事形態や盛り付けなどに配慮し提供を行っている。役割分担をし、食器拭きや洗濯物たたみなどを中心に行ってもらっている。	未食管理体制加算を昇正し、管理栄養士より栄養ケアに係る介護職員への助言や指導がおこなわれています。重度化する中で一口大、とろみ、ミキサー、ペーストなど咀嚼や嚥下状態に応じた食形態で提供し、栄養補助食品も視野に入れながら経口摂取が維持できるよう援助しています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて管理し、共有している。また、食事量の確保が難しいお客様には低栄養にならないよう、主治医より経腸栄養剤等が提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室の洗面所で実施している。ご自分で難しい方にはこちらで支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてお客様毎のパターンを把握し、誘導している。	理学療法士との連携による平行棒訓練で、片麻痺でもサイドバーを利用した協応動作が得られ、トイレでの立位が安定した例もあります。ベッド上での介助となっている人もいますが、皮膚トラブルを避けコスト面も考慮した、よりよい排泄用品を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量のアップ、食材等に配慮し工夫している。必要に応じて栄養士に相談している。栄養管理体制強化の為、法人内管理栄養士との連携も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様に合わせて対応している。2人介助が必要な方に対してはユニットで連携し行っている。入浴方法についてはリハビリ職員とも連携をとっている。	現在、職員2人対応が必要な利用者が5名おり、それまでシャワー浴対応だった人でも理学療法士からのアドバイスにより、安心して湯船に浸かれる移乗技術を習得しています。冬至には地域の有志からたくさんの柚子が届けられ、その香りに浸っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を限定せずに、皆で過ごす時間も大切にしながら一人一人に合わせて支援を行っている。お客様が休息できるよう、フロア内にソファを設置し活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携を通じて、特に排便コントロールに関しては主治医、訪問看護と連携し、慎重に行っている。また、ユニット会議で薬についての理解を深めるための勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員によるレクリエーションや趣味活動を行い気分転換出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、敷地内の散歩等でリフレッシュいただいている。ドライブについてはコロナ禍の状況をみながら実施検討している。	コロナ禍でドライブは見合わせていますが、午前中は10時頃、午後は3～4時頃、季節ごと表情が変わる事業所周辺の散歩に出かけています。野菜や花を植え、事業所敷地内を明るくして楽しんでもらおうと、職員が協力し合い緑化を進めています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった際は、ご家族様へ確認し施設より立て替え、お小遣いという形でご本人に渡し、買い物についてはカタログをみてもらう等で決めていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には施設よりご家族様へ連絡を取り橋渡しとなっている。毎月のお便りの発送をしている。必要時は携帯電話でご家族様と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等で季節を感じていただけるようにしている。生活共有空間については、お客様毎に使用しやすい場所を双方確認しあい対応している。	掲示コーナーには得意な職員の手による四季折々の作品が飾られ、集う人の目を楽しませています。課題であった生活空間の整備は担当者を定め、清掃チェック表による毎日の点検と動線上の危険個所が洗い出され、安心の環境を整えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、共有空間でもくつろげるような環境を整えた。また、大画面の壁掛けテレビを設置し好みの番組を視聴していただいている。Wifi等通信環境も充実させて、インターネットを通じて楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が落ち着いて生活できるように馴染みの物を置いたりしている。ソファなどを活用し、つたい歩きができるような環境作りにも努めている。	「生活空間は生活家具で工夫していく」という法人のモットーに従い、安定感のあるソファ等必需品を事業所でも用意して動線を確保し、安全面に配慮しています。トイレまでの動線に、コンパクト平行棒を設置したことで夜間、一人でも安心して行けるようになった人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はなるべく行って頂き、安全に行えるように危険個所の確認は職員が行っている。防災環境委員会でも協議継続している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば (2階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市岡1293-3		
自己評価作成日	令和4年3月16日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2290400080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の中には、以前併設デイサービスの利用者の方も居り、ご家族との連携が充実している。併設の居宅介護支援事業所もあり連携が図りやすい。
今年度より、リハビリ専門職を併設デイサービスに配置し、フロア毎に平行棒訓練が出来る環境があり、お客様の身体機能向上に好影響となっている。コロナ禍で制限が多くなる中、法人連携により、オンラインを通じた実践を取り入れ、サービス質向上に努めている。栄養士が中心となり食事面での安全配慮を行い、充実を図り、食の満足に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍にあってフロア間の交流さえままならない中、法人のスケールメリットでWi-Fi環境が一斉整備され、デイサービス仲間との画面越し交流や、オンラインライブとして童謡や馴染みの曲をテレビに映し出すなど、今までにない楽しみが増し、オンラインによる面会も定着して録画により家族間で共有するなど、ICTの活用が目を見えます。併設事業所がリハビリ強化型デイサービスとなったことを機に、グループホーム各階にも平行棒を設置し、理学療法士の助言をもとに機能訓練に励み、日課として取組んだ結果、ADL向上とともに精神面の安定も図られた例もあり、今後もその効果が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 2290400080					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に掲げ、コロナ禍で制限がかかる中、朝礼で実践方針を共有している。法人としても中途採用者研修を通じて、理念共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域祭りに参加していたがコロナ禍で叶わず、防災訓練で炊き出し支援をいただいた地域女性部の皆様がタオルを寄贈してくれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて、地域へ発信している。併設デイサービスを通じて外部ケアマネージャーへの情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リハビリ強化型デイサービス移行に伴い、平行棒を各フロアに設置し、機能訓練強化している状況について助言をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	伊東市高齢者福祉課担当者と密に情報共有や制度改定後の確認事項等を行い、コロナ禍において、運営実態について情報共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会後開催する、身体拘束廃止委員会で身体拘束適正化に向けて協議し、職員の意識向上につなげている。新入職者については、法人研修、施設オリエンテーション時に理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内・事業所内でも研修等を通じて理解を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後対象となる可能性のお客様を通じて、成年後見制度について理解を深めている。併設居宅ケアマネージャーより情報収集している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に認知症の方の生活上で起こりうる可能性のある事柄についてご説明し、不安を共有しながらリスク説明も交えて契約を行っている。契約担当者を複数名設けて、契約後等の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に一回実施し、施設を介さずに法人へ直接回答をする仕組みとなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人目標も振り返りを行い、面談をする場を設けています。各ユニット会議にて職員の意見を吸い上げ運営に展開している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍での安全環境確保の為、休憩室を増やし休憩の工夫を行った。業務内容の見直しにより時間外削減に繋がっている。コロナ禍の今は時間外なく退勤でき、家族との時間充実に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー達で協議をし、職員研修への参加計画を立て参加を促している。今年度はコロナ禍の為オンライン研修が主流となり、より参加しやすくなった。資格取得支援を強化しこやまカレッジの学びは職員の自信に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内会議などを通じて得た情報を水平展開し、サービスの質向上に努めている。研修参加時のグループワーク等では他事業所職員との交流が図れる良い機会となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりはじめの頃は、特に職員との関係性作りと席など環境設定に重点を置き、安心していただけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員2名体制で導入時の相談にのっている。ご家族面談にて不安や困り事は聞き取りをしている。都度、お困り事や要望に対しては丁寧に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ禍ではあるが、機能維持に努めてもらえるよう、平行棒訓練を案内している。医療体制についてはご家族様と慎重に相談をし、訪問診療等を通じてご家族様の不安軽減に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様お一人お一人の役割を持っていただくことで出来る事を増やし、やりがいを持って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に利用における留意事項等を説明し、ご家族様との協力支援の重要性を伝えていく。都度、ご家族の意見を取り入れながらケア体制を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスをご利用されていたお客様が入所となる事もあり、デイサービスで築いた関係性が継続できるように支援している。コロナ禍で遠方のご家族が面会が叶わなくなってしまったが、オンライン面会で孫との再会も叶った。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション等を通じて一体感が生まれるように取り組んでいる。席の配置に配慮をし、関係性に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった際は、法人内連携、地域包括との連携により支援にあたっている。転居先相談員との情報交換する場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	待機者の多くは併設デイサービスの方が多いが、待機中に意向、希望確認について情報収集に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、関係者からの聞き取りで得た情報を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理の為に日々のバイタルチェック表や医療連携簿等を通じて把握している。併設デイサービス理学療法士の評価も交えて、現状把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきノートを用いて職員からの意見を収集し、ユニット会議で協議し計画作成に生かしている。ユニット会議にてケアの見直しや、お客様に合わせた日課プログラム等を協議し計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録上で実践状況を踏まえて、ユニット会議で協議し計画書作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと連携し、体操やレクリエーション等について水平展開している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍で制限が多く、敷地内の散歩等で草花に触れ、穏やかに生活頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、訪問診療で対応している。訪問看護との連携もあり安心につながっている。コロナ禍での家族受診は大きな負担に繋がる為、事業所内で受けられる体制はご家族様より支持を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の状態変化を細かく観察し、訪問看護、医療連携看護師との連携を通じて、必要に応じ主治医へ相談している。訪問診療時には担当者が医療連携看護師と事前共有した上で臨んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	所長・管理者・計画作成担当者を中心に入退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適宜、必要なお客様をピックアップし、今後看取り支援に向かうような方への事前協議を担当者会議も活用し、ご家族様と検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを掲示し、急変、事故発生後は朝礼で情報発信し、各方面から助言をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を通じて、町内会からの支援も頂いている。新入職者を中心に各種防災関連項目について知識習得に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心として、こやまケア行動指針に沿ってお客様へもかかわり方について考え対応している。ユニット会議でも接遇について協議を重ねている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際、嗜好にも考慮し提供している。平行棒を導入し、歩行訓練希望者には安全配慮の上、訓練いただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護記録にサービス内容を記載し、お客様の生活ペース等を理解し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の嗜好等に配慮し洋服などお客様と一緒に決めている。また、ヘアカットに併せてネイルなども取り入れでおしゃれの機会を定期的に作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やリクエストメニューなど、食べる楽しみを重視し、食事形態や盛り付けなどに配慮し提供を行っている。役割分担をし、食器拭きや洗濯物たたみなどを中心に行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて管理し、共有している。また、食事量の確保が難しいお客様には低栄養にならないよう、主治医より経腸栄養剤等が提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室の洗面所で実施している。ご自分で難しい方にはこちらで支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてお客様毎のパターンを把握し、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量のアップ、食材等に配慮し工夫している。必要に応じて栄養士に相談している。栄養管理体制強化の為、法人内管理栄養士との連携も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様に合わせて対応している。2人介助が必要な方に対してはユニットで連携し行っている。入浴方法についてはリハビリ職員とも連携をとっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を限定せずに、皆で過ごす時間も大切にしながら一人一人に合わせた支援を行っている。お客様が休息できるよう、フロア内にソファを設置し活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携を通じて、特に排便コントロールに関しては主治医、訪問看護と連携し、慎重に行っている。また、ユニット会議で薬についての理解を深めるための勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員によるレクリエーションや趣味活動を行い気分転換出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、敷地内の散歩等でリフレッシュいただいている。ドライブについてはコロナ禍の状況をみながら実施検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった際は、ご家族様へ確認し施設より立て替え、お小遣いという形でご本人に渡し、買い物についてはカタログをみてもらう等で決めていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には施設よりご家族様へ連絡を取り橋渡しとなっている。毎月のお便りの発送をしている。必要時は携帯電話でご家族様と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等で季節を感じていただけるようにしている。生活共有空間については、お客様毎に使用しやすい場所を双方確認しあい対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、共有空間でもくつろげるような環境を整えた。また、大画面の壁掛けテレビを設置し好みの番組を視聴していただいている。Wifi等通信環境も充実させて、インターネットを通じて楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が落ち着いて生活できるように馴染みの物を置いたりしている。ソファなどを活用し、つたい歩きができるような環境作りにも努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はなるべく行って頂き、安全に行えるように危険個所の確認は職員が行っている。防災環境委員会でも協議継続している。		